

3炉・2待合室で4体／日 日本共産党議員団が頸北斎場を視察

2月22日、日本共産党議員団は柿崎区の頸北斎場を視察しました。

この斎場は、1992年に当時の柿崎町、大瀨町、吉川町が合同で建設したもので、総工費は約4億5千万円です。

見たところ、建物はたいへんきれいで、経年変化もあまり感じられません。これは、管理が行き届いて丁寧に使われているからでしょう。

年間の維持費は約3,000万円。そのうち、管理委託料が約2,000万円、修繕費が500～600万円、修繕費は最近

増加傾向とのことです。特に、炉の排煙を処理する装置に不具合が発生するようになってきていて、修理の頻度も高くなっているようです。

この斎場には、遺体用の炉が3基あるほか、小動物用の炉が備えられており、市内だけでなく、県内各市町村や県外からもペットの火葬に訪れる人がいて、使用頻度も高いとのことです。

また、居多の上越斎場の炉は比較的小さめであるのに対して、頸北斎場の3基の炉のうち1基は少々大きめの炉で、高身長の人にも対応しています。

待合室は2室。そのため、炉が3基あっても、同時に受け入れることができるのは2体です。午前2サイクル、午後2サイクルとして、1日4体受け入れています。

この施設は、地元にとっては、欠くことのできない施設です。上越斎場の更新はたいへん大事ですが、同時に各地の斎場の維持も大事な市民サービスの一つです。



講演の後には、「なぜ賛成する人が多いのか」など質問も活発に行われ、関心の高さが示されました。また、その場で署名したり。パンフレットを買い求めたりする人も大勢いました。

そして、テロ関連法は既に整備されており、「テロ等組織犯罪準備罪」「共謀罪」法案はまったく必要のないものであることを強調しました。

馬場弁護士は、「共謀罪」とは何か、②問題の所在は、治安維持法の再来なのか、テロ対策なのかという点を切り口に、「共謀罪」は、現行刑法の体系を根底から覆し、元々冤罪を生み出す危険があることなど、市民団体が「共謀罪」によって処罰されるおそれがあることなどをわかりやすく説明しました。

もともとと 冤罪生む 危険性あり

2月26日、市内で「共謀罪って何だ？」の学習会が行われ、会場一杯の市民が参加しました。講師は馬場秀幸弁護士です。

「戦争準備許さない」

日米共同訓練反対の声大きく

関山演習場での日米共同訓練が6日から始まります。市内の労働組合や市民団体、革新政党は「戦争準備を許さない」と、4日は大きな規模での反対集会です。今年、上越市と妙高市は、こうして3回目の要望を行いました。



3年前の日米共同訓練の様子



日本共産党上越市議員団ニュース

No. 536 2017年3月5日

連絡先 橋爪 法一 090-5392-1961 (吉川区代石)
橋本 正幸 080-1980-9855 (三和区鴨井)
上野 公悦 090-7260-9407 (頸城区中柳町)
平良木 哲也 090-1808-6919 (上中田)